

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2017年8月26日発行 第78号

タイ便り

タイ在住の西川会長からの便り

会員の皆さん。悲しいお知らせがあります。

去る8月21日、キャンヘルプタイランドの創設者であるハリー・レイ前会長が逝去されました。

レイ前会長（以下、レイ先生と呼ばせていただきます）は、筑波大学勤務時代に、タイ教育省から派遣された留学生オラチャート氏と出会い、タイ農村部の子供たちの劣悪な教育環境を聞かされたことから、支援活動を思い立ちます。

そして、同じく筑波在住だった故新井前副会長と出会い、活動を徐々に広げていきます。その後、横浜国立大学へ移ってからは、横浜でも活動の輪を広げ、1993年に名古屋の南山大学に移ります。

そこで、それまで構想に描いていた日本人とタイ人協同によるワークキャンプを実現させたい、また事務所機能の強化をしたいと学生に参加を呼びかけます。そのときたまたま声をかけられたのが私でした。

その当時、横浜で新聞で紹介されたりしてドナー（寄付協力者）は増え続けていたものの、事務作業はレイ先生と奥様がほぼすべてをこなしているような状態でした。多くの慈善団体が寄付金の2～3割を事務経費として使っていることを快く思っていなかった先生はできるだけ多くの寄付金を現地の子供たちに届けようと、事務経費はほとんど先生の持ち出しでした。

名古屋での活動も、新聞に大きく取り上げられたこともあって大きく広がりました。ドナーも順調に増え、活動をサポートする学生サークルができ、ワークキャンプも試行錯誤を繰り返して何とか軌道に乗せることができました。最盛期には年間800名以上の子供たちに奨学金を贈り、参加者150名を超えるワークキャンプを実施するまでになりました。

寄付金をくださった方、ワークキャンプに参加された方は、キャンヘルプタイランドの支援活動に賛同して協力してくださったのはもちろんだと思いますが、レイ先生の人柄と情熱に惹かれて協力しようと思ってくださった方も多かったように思います。

多少の障害をものともしない、時には無謀とも思える大胆な行動力、困難を笑って吹き飛ばせる強さ、寛容さ、前向きさ、人を惹きつけてやまない愛嬌に、タイの子供たちばかりでなく、キャンヘルプタイランドに係わった多くの日本人が魅了されたのではないかと思います。私もその一人でした。

南山大学を退職されたレイ先生は、アメリカと日本を行き来しながらいくつかの大学で教えられ、その後、晩年はアメリカで静かに暮らしていたと聞いています。

レイ先生がタイの子供たちの支援を始めてから30年弱。中学校にすらなかなか行けなかった農村の子供たちが当たり前のように高校へ行ける時代になりました。きっと天国でほっとされていることでしょう。

タイの子供たちの前で披露するお得意のニワトリの鳴きまね、冗談を言った後に見せるかわいらしいウィンク、年を忘れてトラックの荷台から飛び降りようとして私にたしなめられたときに見せる苦笑い、パソコンに向かう真剣な横顔……。レイ先生のいろいろな表情がよみがえっては消えていきます。

心からご冥福をお祈りしたいと思います。合掌。

西川弘達

報告1

～2017 年度奨学金授与式～

坂 茂樹

7月3日から8日まで、タイ東北部（ナコンパノム県・ムクダハーン県・カラシン県・ロイエット県・マハサラカーム県）5 県で 2017 年度奨学金授与式を行ってきました。各県ともキャンヘルプタイランドの奨学生約 20 名とタイの協力団体（FREE）の奨学生を合わせて授与式を行い、小学生から高校生の児童と学生に手渡しで一人 3,000 バーツを授与しました。

タイの地方都市は、現在少子化傾向にあり、毎年子どもの達数が減ってきています。田舎では、全校生徒が 100 名に満たない学校が多くなってきています。キャンヘルプタイランドが支援を始めた 20 数年前は、中学校の義務教育化が行われ、教室不足や金銭的に学校へ通えない児童の問題が多くありました。今では、多くの地域で教室不足の問題も解消され、公立学校の無償化も進み、ほとんどの子どもたちが小中学校へ通えるようになりました。中には、日本と同じように片親や両親ともいない子が祖父母や親戚と暮らしていて、家庭環境に恵まれず満足な教育が受けられない子どももいますが、そのなかでも成績の優秀な子には、優先的に奨学金が行くような仕組みになっています。ただ、タイの経済発展とインフレに伴い、年間 3,000 バーツという支援額が家庭環境の恵まれない奨学生たちにとってどれほど有効かという疑問も残ります。

キャンヘルプタイランドが実施していく“これからの奨学金プログラム”について「広く薄く」なのか「狭く厚く」なのか、タイでの支援開始から 20 年以上経過した今、検討する必要があると認識しました。



ナコンパノム県の奨学生



副教育長も授与式に参加してくださいました



マハサラカーム県



ムクダハーン県

○奨学生家庭訪問

今回の授与式では2名の児童の家庭訪問も行いました。特にナコンパノム県の児童の家庭は、父子家庭で双子女児2名が小学校に通っていました。父親は建設作業や農業をして家計を支えています。姉妹とも成績優秀で妹はキャンヘルプタイランドの奨学金を、姉は別団体の奨学金をもらっています。あまり恵まれているとは言えない家庭環境ですが、父親は再婚もせず真面目に働いているので、姉妹は家事を手伝いながら頑張って勉強しています。こういう家庭ばかりならいいのですが、両親が離婚した場合、養育権を持った親も再婚して出て行ってしまい、子どもたちは祖父母に預けられたままになってしまうケースがかなりあります。もちろん出て行ってしまった親からは仕送りが来ることはなく、祖父母の収入だけでは学校へ通うのも大変になってしまい、義務教育終了後には成績が優秀でも低賃金の仕事に就かなくてはならない子どもが多いのが現状です。ただ、こういう問題は先進国の日本にもあることなので、民間NGOではどうしようもない問題なのかもしれません。政府のしっかりとした社会保障制度づくりが必要になります。



○2003年ワークキャンプ実施校訪問

2003年に図書館を支援したカラシン県のノンボンウィッタヤ学校も訪問することができました。ワークキャンプ実施から14年経った今でも、当時在籍してみえた先生方が数名いらっしゃり、日本人の建設作業を映したアルバムを見せてくださいました。そのころ小学生だった女子児童の子どもが現在のノンボン学校の2年生で在籍しているということを知り、時の流れを実感しました。



○大学生奨学金の学生訪問

マハサラカーム県で奨学金授与式を行ったとき、マハサラカーム大学のすぐ裏のホテルに宿泊したのですが、今年の3月に大学生奨学金の面接に行ったスリン県出身の女子学生がマハサラカーム大学に通っていることを思い出して連絡してみました。夕食を一緒に食べることにして、リクエストを聞いてみると「焼肉食べ放題」がいいということで、大学近くの焼肉レストランで待ち合わせ、お腹いっぱい焼肉を食べました。焼肉食べ放題といっても、大学生が多く住むところなので、一人99バーツ（約300円）でとてもリーズナブルです。この学生は、両親がいないのでスリン県で祖父母と生活していましたが、今は大学の寮で同じ高校出身の友達と共同生活をしています。マハサラカームに来て約1カ月が過ぎていましたが、楽しそうに元気に暮らしていました。



○「カサロンの家」奨学金授与式

今年もチェンマイ県ドイサケット郡にある山岳少数民族出身の子どもたちの学生寮「カサロンの家」に共同生活している子どもたちにも奨学金を授与してきました。2005年に建設され、すでに12年が経過しているこの寮も、順調に運営され、すでに多くの子どもたちが巣立っています。現在は、幼稚園から高校3年生までの20名の子どもが在籍していて、仲良く共同生活をしています。奨学金の3,000バーツは子どもたちの学用品の購入や寮での生活費に充てられます。

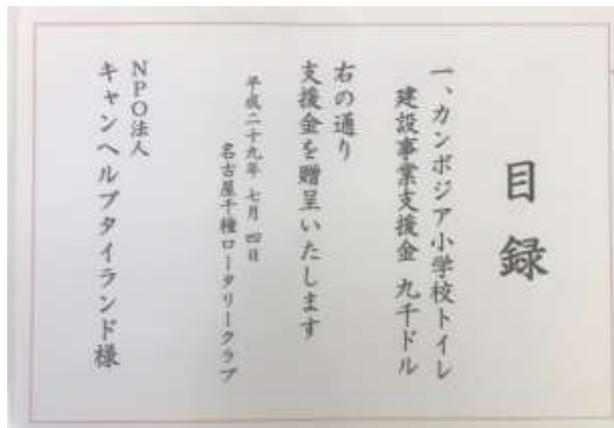
報告2

～名古屋千種ロータリークラブ様 カンボジアトイレ支援～ 坂 茂樹

2017年8月4日から7日まで、名古屋千種ロータリークラブの皆様とカンボジアのトイレ支援完成式に参加してきました。2017年7月に名古屋千種ロータリークラブ様からカンボジアトイレ支援金 9,000 ドルをご寄付いただき、カンボジア王国バタンバン州サンパオルン郡の小学校3校へトイレの支援を行いました。その完成引渡式の参加報告です。

8月4日（金）の早朝5時にバンコクのスワンナプーム国際空港に到着し、空港内で朝食後、チャーターワゴンで一路東へ向かいました。約3時間半の移動で、サケーオ県のバンライサムシー学校に到着。この学校は、2002年に名古屋千種ロータリークラブ様の20周年記念事業として、図書館を建設した学校です。15年前前の図書館が今どようになっているのかを視察する目的でここを訪問しました。その後、2015年にキャンヘルプタイランドが図書館を建設したバンカオディン学校を訪問し、カオディン学校の近くにある小さな国境も見学しました。この国境はタイ人とカンボジア人以外の通過を認めていません。30分ほど国境を見た後、アランヤプラテートに予約してあるホテルへ向かい、チェックインの後、今度は大きな国境を下見に行きました。こちらの国境は、翌日カンボジアへ入国するために使う国境で、タイ人やカンボジア人以外の通過も可能です。

8月5日（土）朝8時にアランヤプラテートのホテルを出発し、国境を目指します。距離は6キロほどなので10分程度で到着です。ワゴンを降りて、50メートルほど歩いて、タイ側のイミグレーションで出国審査を受けます。そこからさらに、両側に大きなカジノがある所を100メートルほど進んで今度はカンボジア側のイミグレーションで入国審査を受けます。ここでは、入国を管理するコンピューターの調子が悪くしばらく待たされましたが、20分ほどで無事に通過できました。ここポイペトではJTBが手配してくれたマイクロバスに乗り、トイレ支援を行ったサンパオルン郡へ向かいます。ポイペトからサンパオルンまでは70キロメートルほどなので、1時間ほどの行程です。50分ほど移動した州境でサンパオルン郡の警察が待っていてくれたので、そこからは警察車両の先導で現地の学校を目指します。初めに到着したのは、ベントレット小学校で、校門から子どもたちが列を作り、私たちの乗ったマイクロバスを迎えてくれました。この学校でトイレ支援を行った3校の完成式を行いました。式典には、バタンバン州の教育長、サンパオルン郡の副郡長、地域の村長、各学校の校長も出席し、とても盛大なものでした。名古屋千種ロータリークラブの吉田会長から、トイレに掲示するプレートが渡され、お



返しに教育長から感謝状が手渡されました。完成式の後には、名古屋千種ロータリークラブから学校の児童へ文房具の授与が行われました。子どもたち一人ひとりへノート 2 冊と鉛筆 2 本がプレゼントされました。その後、カンダル小学校とトラウチャー小学校を視察し、もう一度、ベントレット小学校へ戻った後に昼食となりました。今回、所用で完成式に参加できなかったサンパオルン郡の郡長様からブランデーの差し入れもあり、学校の校庭に張られたテントの下で豪華な昼食を頂きました。昼食後、2017 年 3 月にキャンヘルプタイランドがタサダ小学校のトイレを視察し、一路今夜の宿泊地シェムリアップを目指しました。夕方、6 時過ぎにはホテルに到着し、ホテル近くのレストランで夕食後に解散となりました。



8 月 6 日（日）は、夜の飛行機でバンコクへ戻るため、夕方まで観光に当てられました。シェムリアップには世界遺産のアンコール遺跡群があり、入場料 5,000 円弱を払えば 1 日中アンコール遺跡群を見て回れます。ただ、この日は、アンコールワット周辺でマラソンイベントがあったので、あまりゆっくりとは遺跡観光ができなかったようです。夕方 6 時にホテルをチェックアウトし、空港に向かう途中で夕食をとり、8 時には、カンボジアのシェムリアップからタイのバンコクへ向かう飛行機にチェックインしました。夜 10 時過ぎにはバンコクのスワンナブーム空港に到着し、そこで名古屋行の飛行機に乗り換えます。

8 月 7 日（月）午前 0 時半のセントレア行きに乗り込み、日本時間の朝 8 時には日本到着予定でしたが、この便の出発が 2 時間ほど遅れたため、名古屋への到着は午前 10 時を過ぎました。皆様お疲れさまでした。



カンボジアの地方都市では、近年急速に児童の数が増加しています。約 300 名程度の児童に対しトイレが 2 部屋しかない状態の小学校がまだまだたくさんありますので、キャンヘルプタイランドでは今後もカンボジア小学校トイレ支援を継続していこうと考えています。

みなさまのご支援を心よりお待ちしております。

報告3

～2017年度給食支援プログラム～

タイの義務教育制度は、近年大幅に改革が進み、学校給食も政府から児童一人につき1食20パーツの支援が受けられるようになりました。キャンヘルプタイランドの給食プログラムも、そろそろ支援の方向性を変更していく必要が出てきました。

2016年度に給食支援プログラムの対象となる支援先が選定できなかったため、2017年度は、2016年度分と合わせて80,000パーツほどの支援を予定し、運営委員会で議論を重ねてきました。そして、2017年度は、チェンマイ県の学生寮「カサロンの家」の子どもたちの食事を支援することに決定いたしました。

「カサロンの家」では現在約20名の山岳少数民族出身の子どもたちが共同生活していますが、子どもたちの親から徴収する寮費だけでは運営できないので、様々な寄付に頼っています。

運営費の負担を少しでも軽くするために、キャンヘルプタイランドでは、今までに、養鶏場、養豚場、養魚池などを支援してきました。養鶏場でとれた卵や鶏は、自分たちで食べたり、村の市場で販売したりしますし、豚も子豚を生産したり、大きく育ったものは子どもたちの食料になります。魚も同じく子どもたちの貴重なタンパク源になります。もちろん「カサロンの家」の敷地内にはバナナ畑、野菜畑、田んぼなどもあり、子どもたちの手で育てられた野菜は有機無農薬です。2015年にはバンコクのタマサート大学の学生達がボランティアで「カサロンの家」を訪れ、キノコ小屋の支援もしてくれました。これらの支援で、「カサロンの家」の自給自足のサイクルはうまく回るようになってきました。

しかし、寮の安定した運営には現金も必要になってきます。そこで、今回の給食プログラムでは、「カサロンの家」で牛を飼って、子牛を生産したり、肥育した牛を販売したり、牛の糞で堆肥を作ったりして少しでも現金収入ができるようなシステム造りを行います。最初の支援で、牛小屋と子牛2頭を支援し、順調に進めば、将来的には10頭程度の牛を飼えるようになったらと考えています。



報告4

～新井文庫支援先決定～

新井文庫の支援先が、故新井前副会長が1997年のワークキャンプに参加したムクダハーン県のバンドンムアイ小学校に決定いたしました。ナコンパノム県とムクダハーン県を結ぶ、メコン川沿いの幹線道路にあるこの学校は、全校生徒90名弱の小さな学校ですが、1997年に建設プログラムで校舎を建設し、新井先生もその時のワークキャンプと一緒に汗を流しました。当時在籍していた先生方も、まだ3名残っていました。

2017年度の奨学金授与式の途中に、この小学校を訪問し、新井文庫授与式を行ってきました。まずは、前半の支援で本棚と本を寄贈し、後半の支援では、学校からの要望により図書館で利用するコンピューターの支援を行います。新任の先生が、コンピューターの専門なのにまともに使えるコンピューターが1台もなく、授業に使えるコンピューターを図書室に設置してほしいとの要請で、新井文庫の一環として支援を決めました。もちろん、コンピューターだけでなく図書の支援も同時に行います。

新井文庫へご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



お知らせ

～ワールドコラボフェスティバル 2017 出展～

毎年参加している、名古屋ワールドコラボフェスティバルに今年もキャンヘルプタイランドがブースを出展します。活動紹介の写真展示やタイから持ってきた小物販売もありますので、皆様ぜひお越しください。

日 時：2017年10月14日（土）、15日（日）
10:00～18:00
場 所：名古屋栄オアシス 21「銀河の広場」

お知らせ

～特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド～

皆様からのご寄付の入金先だった郵便振替口座の名義が「キャンヘルプタイランド」から「NPO キャンヘルプタイランド」と変更になりますのでご注意ください。

寄付金・会費のお振込みは…

＜郵便振替口座＞

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2017年5月～7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月	事務所	夏のワークキャンプ計画
運営委員会	6月	事務所	奨学金授与式準備
運営委員会	7月	事務所	奨学金授与式報告

運営委員募集中！

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

7月の奨学金授与式終了後、タイのチェンマイからカンボジアのシェムリアップへ移動する必要がありました。単純にバンコク経由の飛行機でも移動できたのですが、ちょっと、ラオスの古都ルアンパバーンに寄ってみたいと、チェンマイから夜行バスでラオスまで行って見ました。世界遺産のルアンパバーンは、小さな街ですが、静かでのんびりしていて、もう一度訪れたいと思える数少ない街の一つでした。ぜひ一度、いや何度でも行ってみてください。そして、最低3日は滞在してみてください。絶対におすすめです。

＜キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.78＞

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2017年8月26日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13～16時頃)
 E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp